

竹芝 CiP で、無線 LAN や LTE を活用したスマートデバイス向け放送の評価検証を準備

実験
放送技術
無線通信
著作権

国家戦略特別区域計画の特定事業として内閣総理大臣認定を受けた東京都・竹芝地区において、無線 LAN や LTE を活用したスマートデバイス向け放送の評価検証に向けた準備が進められている。

すでに、IPDC フォーラムが、CiP 協議会と連携して評価検証を行うことが CiP 協議会から発表されている。CiP 協議会の理事長で、IPDC フォーラム代表でもある中村伊知哉・慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授によると、「宅内向けサービスとして無線 LAN 経由でスマホで受けられる、公共空間において無線 LAN マルチキャストで伝送しスマホで受けられる、移動しながら LTE で受けられる、この三つをすべて実施する」と説明する。

検証する内容としては、技術検証も行うが、主たる目的はビジネスモデルの検証を予定する。たとえば著作権処理やニーズ分析などを挙げる。今回の実験は、ラジオ放送の世界で始まった「radiko」のように、「放送局が主体」になり、編成も変えずネットでも受信できるようにしようというものという。

放送と通信の融合を目指す IPDC フォーラムには放送局や通信キャリアなども参加して様々な議論を行っており、その検討の一つとしてスマートフォンやタブレット向けに、経路に依存しないシームレスな放送サービスを実現するための手法の確立に向けた検討に着手していた。CiP 協議会の会員でもある IPDC フォーラムからの提案があり、国家戦略特区での評価検証を進めていくことになったという。スケジュールは未定だが、2016 年度の上半期にもスタートさせたい考えだ。
(田中正晴)

日経ニューメディア 2016.4.18